

メンズヘルスセミナー2008（終了）

メンズヘルスセミナー2008 はご好評のもと終了いたしました。多数のご参加・ご支援ありがとうございました。



2008年4月26日、パシフィコ横浜でメンズヘルスセミナー2008を開催しました。第96回日本泌尿器科学会総会との主催で行われたこの学会は他の9つのサテライトセミナーと腎癌研究会が同時に開催されていたにもかかわらず、収容人数の120席は満席となり、立ち見がでる程の大盛況でした。それだけ泌尿器科の中でもメンズヘルス医学に関心が集まっていることが伺えます。



開会の辞では日本泌尿器科学会理事長 奥山明彦先生にご挨拶のお言葉を頂戴いただきました。



座長は、当学会の理事長である熊本悦明先生と東京泌尿器科医会会長の長久保一朗先生が務めました。

講演1 『100歳まで男性！ ～診療に役立つ酸化ストレスの話～』

順天堂大学大学院医学研究科加齢制御医学講座教授 白澤卓二先生



近年の抗加齢医学のトピックとして、カロリー制限（カロリーリストラクション）は寿命が延びることが話題である。酵母からマウスに至るまでこの事実は証明されているが、ウィスコンシン大学で行われている人間に近いアカゲザルの実験では 成長期後のサル of 食事を 17 年間 70% に制限して食べさせたところ、カロリー制限していないサルと比べると毛の色やツヤがよく、皮膚も弾力があって若々しいという研究結果がでていいる。100 歳以上の長寿者の長寿バイオマーカーを見てみると、低体温傾向、低インスリン傾向、血中 DHEA-s が高い。エイジングの進行を止めるには、インスリンをできるだけ上げないことと血中の DHEA-s を上げることが重要である。

肥満になると脂肪細胞にマクロファージが浸潤して、善玉のアディポサイトカインであるアディポネクチンが分泌されなくなる。100 歳になっても運動している人は動脈硬化を起こしているが、アディポネクチンが高いため心血管イベントの予防ができていいる。また、100 歳以上生きるためには生きがいを持つことが重要であり、マウスにおいても豊かな環境で飼育した中高年マウスでは神経細胞が増えたという報告がある。

結論として、100 歳まで男性として現役で生きるためには、

- ① 生活自立
- ② 生涯現役
- ③ 夢と努力、チャレンジ精神

講演2 『テストステロンとメタボリック症候群』

東京大学大学院医学系研究科加齢医学准教授 秋下雅弘先生



加齢に伴って、血中のテストステロン濃度は低下し、様々な疾病が起こる。テストステロンの低下は、メタボリック症候群や動脈硬化と関連している。特にテストステロン濃度は内臓脂肪とアディポネクチンと負の相関があり、テストステロンの低い高齢男性患者にテストステロン補充療法を行うと体脂肪が減るという症例を経験した。

血管内皮機能障害は動脈硬化の初期病変である。テストステロン濃度と血管内皮機能の関係をみるとテストステロン濃度が 高いほど血管内皮機能が高いことが統計上明らかになった。また近年ではテストステロン濃度と CDV に関する疫学研究が数多く報告されてきた。

結論としてテストステロンとメタボリック症候群の関係は、

- ① 高齢男性のテストステロン濃度が下がると、メタボリック症候群の各因子、血管内皮機能障害、心血管障害の発症と関連する。
- ② アンドロゲン補充療法によりメタボリック症候群が改善する可能性があるが、十分な根拠はない。
- ③ 運動療法などで内臓脂肪を減らすことでアンドロゲン分泌が増加する可能性がある。

講演3 『メンズヘルス、世界と日本の取り組み』

金沢大学大学院医学系研究科教授 並木幹夫先生



1998年に International Society for the Study of the Aging Male (ISSAM)が設立され、第1回国際会議が Geneva で開催された。アジアでも 2001年にマレーシアで第1回会議が開催され、国際的にも早くからこの問題への取り組みが見られる。その理由は、現在ピラミッド型の人口分布を示すアジア諸国が将来の少子高齢化社会に先進国より経済的、社会的に大きな不安を持っているからと考えられる。日本でも 2001年11月に「日本 Aging Male 研究会」が設立され、2006年には「日本 Men's Health 医学会」と学会化し、男性特有の医学的諸問題の診断、治療、予防対策に対して、基礎科学的、臨床医学的、更には社会的に、研究・調査を行い、広く男性の健康についての正しい医療の開発・推進・発展に寄与している。またそれと並行するように近年の世界的な Aging Male の流れとして、高齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) の研究が盛んに行われるようになってきた。LOH 症候群は、加齢に伴う男性ホルモンの低下に起因し、男性更年期障害の症状や骨減少、筋減少、内臓脂肪蓄積などの徴候をもたらすのが特徴で、生活の質 (QOL) に明らかな

変化をきたすことがあり、多臓器の機能に悪影響を及ぼすことがある。この症候群については、ガイドライン作成の能率化を図るため5班に分け、4回の全体会議を重ね、ガイドラインの素案を完成させた。

閉会の辞では、今回の座長である長久保一朗先生から「泌尿器科医の Aging Male」という演題で泌尿器科医として歳を取ってもできる手術があるというお話を頂戴しました。また、忙しい中ご来場いただいた台湾のリン先生にも賛辞をいただきました。

